

一 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。

教育学部における教員養成の目標は、教員に求められる資質（教育者としての使命感と倫理観、子どもに対する教育的愛情、同僚や関係者と連携して子どもを支援しようとする姿勢）と能力（子ども理解、教科指導、学級経営等に関する専門的知識・技能とそれらを実践の場で活用できる指導力）を修得し、社会人としてのマナーや汎用的技能を身につけた教員です。

社会人に求められるマナーや汎用的技能を身につけるために基礎科目や総合科目を学びます。また、教員に求められる専門的知識については、専門教育科目によって学ぶことができます。教員に求められる資質は、これを知識として学ぶよりも、現場体験の中できちんと自然に身につけていくことが多いようです。

教育学部では、大学で学ぶ理論知と現場で身につける実践知・体験知の融合をめざしています。大学で学んだことを現場に出て確かめるとともに、現場で得た気づきや体験は大学でのさらなる学修の動機付けとなります。こうして、1年次から4年次まで理論と体験を往還する学修を繰り返し、着実にステップ・アップを図っていきます。詳細については教育学部ホームページの「学びのポイント」をご覧ください。